

森の資源を最大限に生かし
地域の未来を切り拓く。
小さな町の、大きな挑戦！

みんなの力で
復興スクラム!

右から「岩泉町の明日の林業をつくる会」の運営を担う岩泉町林業水産室長の今村篤さん、森林コンダクターの佐々木心彩さん、逢見祥平さん、松永充信さん。

岩泉の明日の林業をつくる会（岩泉町）

面積の約9割を森林が占める岩泉町では、平成15年に森林の適正管理を世界基準で認証する「FSC森林認証」を取得。しかし、基幹産業の林業の盛り上げには、なかなか結び付きませんでした。地域の貴重な資源を生かすため立ち上がったのは、町内の林業・製材業、工務店などの関係者たち。森林資源を最大限に生かし、持続可能な森づくりを目指す「岩泉の明日の林業をつくる会」を設立しました。

しかし、設立間もない平成28年8月、台風第10号が町を襲いました。全国からの応援に感謝しながら、いち早く立ち直るため、復興のシンボルとして、ナラやクリなどの集成材による「ちゃぶ台」を製作。売り上げの一部を復興支援金として、町に寄付するものです。

現在は、岩泉の木材のブランド化や販路開拓をはじめ、樹液を活用するプロジェクトや教材の製品化にも着手。町が主催するインターンシップの受け入れも行い、多彩な取り組みで、岩泉の森の可能性を広げていきます。



インターンシップ

岩泉の林業を川上から川下まで、就業体験を通じて理解してもらうプログラムを実施。学生のキャリア教育や仲間づくりの場となっています。



FSC認証材で木育

森や木への理解を深めてもらうため、技術教材を製品化。紫波町立第一中学校をはじめ県内で技術科の授業に採用されています。



復興支援のちゃぶ台

「台風なんかには負けるか!」というメッセージを込めたちゃぶ台は、「つくる会」会員による連携商品。さまざまな樹種で作るため、表情が豊か。

